

# 大阪

あんなとこ  
こんなとこ

## 『天神橋筋商店街』

天神橋商店街は、天一、天二・・・と変わる毎にアーケードの形状が変わり、各々の商店街が区切られています。今回は、前回調べて知った、天神橋筋商店街の中に位置する場所に纏わる話などをお伝えします。

### 夫婦橋

天満宮の参道の雰囲気漂う昔ながらの店構えが多い天一、天二商店街。アーケードに赤、青、緑の鳥居のオブジェが幾重にも連なる天三商店街は古本屋や八百屋が目を引き新しい感じの商店街。長い商店街のほぼ中間、天三と天四商店街を隔てる道路の両脇には、橋の欄干や橋柱灯があります。これは、この付近に流れていた天満堀川に架けられた夫婦橋を再現したものだそうです。昔天神橋四丁目付近には、夫婦池と呼ばれる一対の池がありました。慶長3年(1598)に天満堀川の一部が開削され、天保9年(1838)に扇町から東北に延伸。それに伴い夫婦橋が架けられました。橋名は夫婦池から付けられたもので、この夫婦池に纏わる話が今も残っています。

昔この辺りに仲睦まじい若夫婦が住んでいました。訳あって夫は妻に三年間待つて欲しいと言い置き、他国へ出かけます。期限が過ぎても夫は帰らず、妻は思い余って池に身を投げてしまいました。その後、夫が戻りますが妻の死を知り、後を追って入水して果てます。世人これを哀れみ、夫婦池と呼んだと言います。



夫婦橋の欄干天三商店街

### 天神橋筋六丁目駅

天五商店街に入ると道幅が狭くなり、特に衣料品店や寿司屋が目立ちます。更に北へ天六、アーケードが無い天七商店街へと続きます。商店街の入り口に有る天神橋筋六丁目駅は、新大阪鉄道天神橋駅として大正14年(1925)に開業。七階建ての屋内に、プラットホームを設けた国内初の駅ビルでした。このビルには、新大阪マーケットや生鮮市場、食堂なども入り、買い物客で大変賑わっていたそうです。その後、会社合併などを経て阪急電鉄の路線となり、昭和44年(1969)関西初の民営鉄道と公営鉄道との相互乗り入れが実現。天神橋筋六丁目駅となりました。駅ビルは翌年から順次増改築され、商業ビルとして利用されてきましたが、現在解体工事が進んでいます。

このビルの北側を通る度、ビルの形状を不思議に思っていました。今回その理由を知り、解体前のビルを訪れ、改めてビルの歴史を感じました。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞